

# 誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和7年5月1日現在

江戸川区立小松川第二小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和8年度の目標	61.0%	61.0%
令和7年度の目標	54.0%	57.0%
令和6年度の結果	60.9%	50.0%
令和5年度の結果	51.8%	57.1%

令和6年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第6学年	63.6%	51.4%
第5学年	48.5%	50.5%
第4学年	55.1%	66.3%
第3学年	55.5%	53.1%

 ともに、生きる。 <b>江戸川区</b>	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OJT研修による若手教員の育成。</li> <li>・教員がペアになり、毎学期授業を見合い協議会を行うことで指導力の向上を図る。</li> <li>・研究授業を軸とし、「対話を通して共に学び合う姿」を目指した授業改善を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員実施の放課後学習教室を行うことで、C・D層の児童の学力の向上を目指す。</li> <li>・算数科における少人数制を行うことで、習熟度に合わせた指導の工夫をし、全児童が理解を深めることができるよう指導を行う。</li> <li>・新聞記事を活用した学習や朝の読書の時間を通して、文章を正しく読む力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談等で保護者に家庭学習の重要性を話し、決まった時間に学習ができるよう保護者の協力を求める。</li> <li>・「江戸川っ子study week」を行い、学習に向かう姿勢やミライシードでの学習の仕方を定着させる。</li> </ul>
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーや巡回の特別支援教諭に相談し、声の掛け方などについて知り、児童理解を深める。</li> <li>・教材研究を行い、発達段階に応じた課題を用意することで、「できた。」「分かった。」と思える体験を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の習熟度別指導や放課後学習教室で、個別の声掛けを行い、「わかった。」と思える機会を増やし自信をもたせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミライシードのドリルパークを活用し、家庭と連携し、学習習慣の確立を図る。</li> <li>・江戸川っ子study weekを節目にして、各学級で内容や時間配分などを共有することで、目標時間に到達していない児童が見通しをもって家庭学習に取り組めるようにする。</li> </ul>
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査「児童・生徒質問紙」における設問「国語、算数の授業の内容はよくわかりますか」への肯定的な回答が80%以上を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4、5年生に実施される江戸川区定着度調査において、60%の児童がA,B層の到達得点を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力調査質問紙「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか」の1時間以上の回答割合70%以上を達成する。</li> </ul>